

**Multi-slice CT による肺がん CT 検診にて発見された肺結節を中心とした
異常陰影の良悪性鑑別の診断基準と経過観察のガイドライン確立に関する研究**

研究対象：

国立がん研究センター検診センター（旧：がん予防・検診研究センター）の検診受診者で検診受診と研究協力についての同意が得られ、かつ、2004年1月～2013年12月の期間に肺がん CT 検診を受けた方達です。

研究の概要：

肺がん CT 検診により多数の肺結節（3cm 以下の陰影）が発見されます。それらは、肺の血管と同じ濃度（濃い灰色）を示す充実型結節と、血管の濃度より低い（薄い灰色）を示すすりガラス様結節に分類されます。充実型結節が肺がんである場合一般的に増大速度は速く、逆に、すりガラス様結節が肺がんである場合増大速度はゆっくりであると考えられています。それらの肺結節が良性であるか悪性であるかの診断基準を確立します。

研究の意義：

肺がん CT 検診により発見される肺結節の良性と悪性の診断基準が確立し、また、適切な経過観察のための指標が明らかになれば、必要以上の検査を省くことができ効率的に診断できることが期待されます。

目的：

肺がん CT 検診にて発見された肺結節を中心とした異常陰影の経過観察を行い、良性と悪性を区別するための診断基準と、喫煙などのリスクに応じた経過観察のガイドラインを確立することです。

方法：

外来にて、充実型結節およびすりガラス様陰影をそれぞれ一定の間隔で経過観察を実施します。増大して肺がんと診断された例と不変例を比較して、初回外来の高分解能 CT にて区別すべき所見を明らかにします。また、経過観察をし

た場合の体積や濃度の変化を解析します。それらをもとに新たに発見された肺結節を経過観察する場合の指標を明らかにします。

個人情報保護に関する配慮:

CT画像および肺結節の文字情報は、事前に国立がん研究センター検診センターの個人情報管理室の担当者により匿名化されてから研究に使用します。研究する場所は、国立がん研究センター検診センターで実施します。受診者の方からご希望があれば、その方のデータは研究に利用しないようにしますので、いつでも下記までご連絡下さい。

研究実施期間:

研究許可日～2025年3月31日

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 検診センター

研究代表者 土田 敬明

電話およびFAXは、国立がん研究センター中央病院検診センター記録管理室です。TEL: 03-3547-5305/FAX 03-3547-5304